

中学校社会科 歴史的分野学習指導案

1: 単元名 「日本の民主化と国際社会への復帰」

2: 単元の概略

- 戦後改革の内容と戦前の様子とを比較し、政治・経済・社会の各分野がどのように民主化されていたのか理解できる。
- ポツダム宣言、サンフランシスコ平和条約により、日本の領土がどのように決められたか理解できる。
- 東西冷戦が激化していく中で、日本が西側陣営に組み込まれていったことと北方領土問題とを関連させて考えることができる。

3: 北方領土教育への視点

- ポツダム宣言受諾後も北方領土には日本人が暮らしていたこと、そこにソ連軍が侵攻して日本人を強制的に追い出したという事実によって、日本の返還要求運動の正当性を理解できる。
- 東西冷戦が、北方領土問題が複雑になってしまった背景にあることを理解できる。

4: 単元展開の概要 (全5時間)

- 第1時：ポツダム宣言受諾後、領土を一部放棄したこと、GHQの指示により日本の民主化(戦後改革)が進められていったことを理解する。
- 第2時：我が国固有の領土である北方領土をロシアが不当に占領するようになった経過や、返還運動に携わっている人々の思いを知り、北方領土問題への関心を高める。(本時)
- 第3時：戦後改革の中心としてつくられた日本国憲法をもとに、様々な法律が改正されていったことを理解する。
- 第4時：国際連合の成立後、その願いに反して東西冷戦が始まったことをドイツの分裂や中華人民共和国の成立、朝鮮戦争を通して理解する。
- 第5時：東西冷戦の中でサンフランシスコ平和条約が結ばれ、日本は国際社会への復帰を果たすが、ソ連との間に平和条約が結ばれず、領土問題が残されたことを理解する。

5: 本時の展開概要

《主なねらい》 主な学習内容と大まかな流れ	指導上の留意点	使用資料
導入 1 本時の学習内容（北方領土をロシアが占領している理由や現況を学習すること）を確認する。 2 <課題1>をやり、北方領土の地理的な確認をする。	・ 答え合わせをしながら、四島名を確認すると共に、面積や諸産業も押さえる。	掛地図、ワークシート（別紙）
展開 3 北方領土の歴史的な歩みから、我が国固有の領土の根拠を理解する。 ・ 資料1を読んでわかること発表し合う。	・ 資料1の北方領土の国境線に着目させ、北方領土はずっとわが国の領土であることを理	資料1「国境の取り決め」 資料2「戦前の

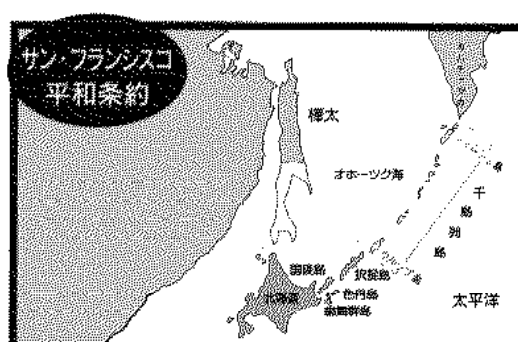
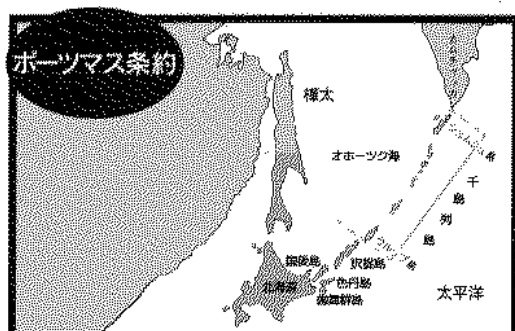
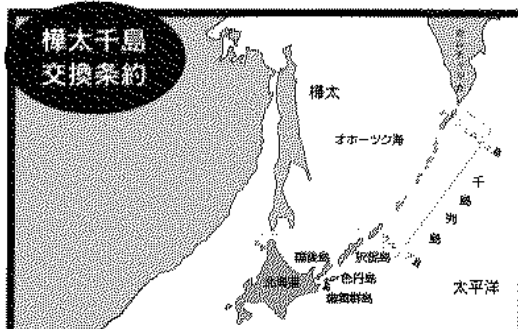
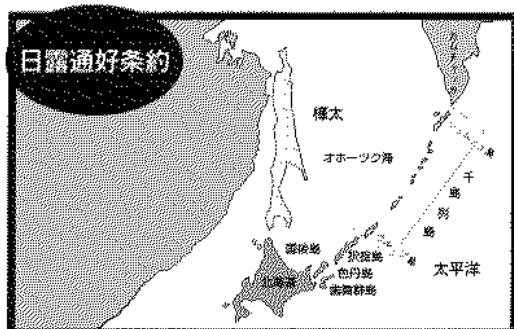
学習問題 北方領土は日本固有の領土なのに、なぜロシアが占領しているのだろう。	解させる（わが国固有の領土であることの根拠となる）。	北方領土の様子」
4 資料3を読み、どのようにしてソ連が占領したのか、わかることを発表し合い、ロシアが占領した経過を知り、不当であることを理解する。（日本が降伏した後に侵入、後に島民全員を追い出したなど。） 5 資料4を読み、北方領土の現状を知ると共に元島民の気持ちを考える。	・ソ連軍の侵攻がポツダム宣言受諾の発表後に行われたこと、その後2年以内に日本人を強制的に排除し、占領してしまったことを押さえる。 ・さまざまな地域から移住してきたロシア人が居住していることを押さえそのような状況の中で元島民はどんな気持ちでいるか考えさせる。	資料3「ソ連の不当占領」 資料4「四島の現在の様子」
終末 6 同じ中学生が書いた意見文である資料5を読み、返還運動が粘り強く行われていることや、元島民やその子孫がどんな気持ちでいるか考える。その後、日本人として領土を不当占領されていることをどう思うかを含めて授業感想を記入する。	・国も返還要求を続けているが、国内世論が盛り上がっていないことに気づかせる。また、今後の返還運動をどうしていったらよいかを問いかけた後、<課題4>を記入させる。	資料5「伝えてゆく島への想い」（根室の中学生の意見文）

6:使用資料や展開にあたっての留意点

資料1～4は、独立行政法人北方領土問題対策協会ホームページ「北方領土問題学習室」による。

資料1「国境の取り決め」

「なるほど！なっとく！北方領土」より http://www.hoppou.go.jp/gakusyuu/naruhodo/manga_4.html



資料2「戦前の北方領土の様子」

「北方領土の概要」より <http://www.hoppou.go.jp/gakusyu/islands/index4.html>

資料3「ソ連の不当占領」

「北方領土の歴史」より <http://www.hoppou.go.jp/gakusyu/history/index6.html>

1941年（昭和16年）、日本はアメリカやイギリスを相手に戦争を始めました。緒戦こそ日本優勢で戦いが進められましたが、しだいに日本の敗戦の色が濃くなってきました。

1945年（昭和20年）4月5日、ソ連のモロトフ外相は、佐藤駐ソ大使に対し、1941年（昭和16年）4月25日に日ソ両国で批准した「日ソ中立条約」の不延長を通告してきました。

そして、同年8月8日にモロトフ外相は、クレムリンに佐藤駐ソ大使を呼び、8月9日から日本と戦争状態になることを通告し、宣戦布告しました。佐藤駐ソ大使は、宣戦布告を直ちに東京に打電しましたが、この公電は日本に到着し

ていませんでした。そのため、日本政府はソ連の宣戦布告をすぐを知ることができませんでした。

宣戦布告がまだ日本政府に達していない8月9日未明、ワシレフスキー将軍の率いる160万のソ連極東軍は、ソ連と満州の国境、モンゴル、ウラジオストク、ハバロフスクの3方面から総攻撃を開始しました。これは、「日ソ中立条約」の有効期限内（1946年4月25日失効）のことでした。

また、樺太では、バツロフ大将の指揮する約35,000人が、8月11日に北緯50度の国境を越えて侵入したため、約20,000人の日本軍と戦闘になりました。

8月14日、日本は「ポツダム宣言」を受諾して無条件降伏しました。

8月16日にグネチコ将軍の指揮するソ連軍がカムチャツカ方面から行動を開始し、8月18日には占守（しゅむしゅ）島に上陸、約25,000人の日本守備隊と交戦しました。しかし、日本軍は北部方面軍司令部の命令により交戦を中止し、8月23日に日ソ両軍現地停戦協定を締結し、武器をソ連軍に引き渡しました。

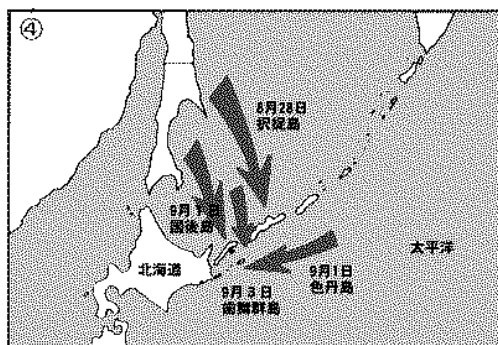
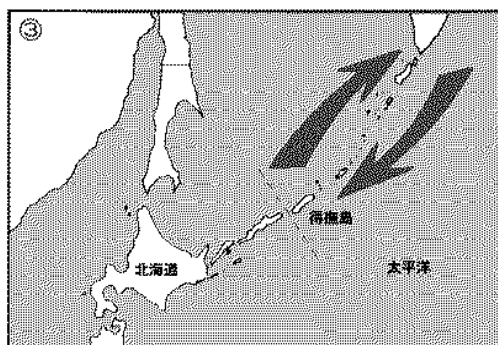
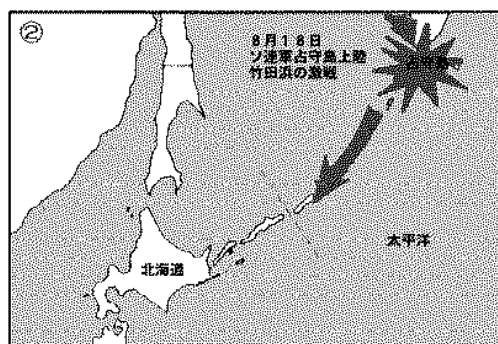
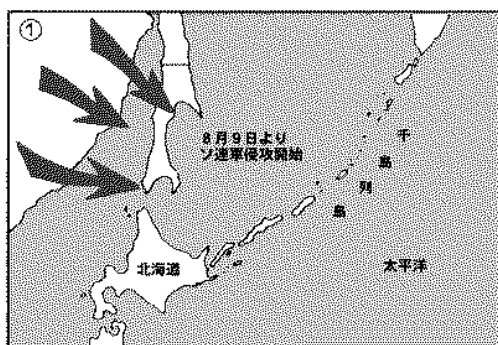
その後も、ソ連軍は千島列島各地に駐屯する日本兵を武装解除しながら南下を続け、8月31日までに得撫（うるつぶ）島の占領を完了しました。

また、ソ連軍は、8月28日に択捉島に上陸、9月1日には国後島、色丹島に達し、9月3日には歯舞群島にまでおよび、9月5日までにことごとく占領しました。

なお、9月2日には、東京湾上の戦艦「ミズーリ」甲板上で、ソ連代表も参加して降伏文書の調印式が行われました。

翌1946年（昭和21年）2月2日、ソ連は「南サハリン州の設置に関するソ連邦最高会議幹部会令」を発し、北方四島を自国領に編入してしまいました。

島で生活をしていた人々の中には、北海道本島との連絡が途絶えてしまったため不安にかられ、危険をおかして脱出した人もいました。住み慣れた故郷を捨てきれず島に残った人々も、1947年（昭和22年）から1949年（昭和24年）にかけて、強制的に日本本土に引き揚げさせられました。



資料4「四島の現在の様子」

「北方領土の概要」より <http://www.hoppou.go.jp/gakusyu/islands/index3.html>

資料5「伝えてゆく島への想い」(根室の中学生の意見文)

「伝えてゆく島への想い」

根室市立啓雲中学校3年 木村成美

近そうで遠い…北方領土。あなたは島についてどう思いますか？

私は、祖父が北方領土出身ということを母から聞かされるまで、島の名前くらいしか知りませんでした。

祖父は72歳になりますが、よく島の話をしてくれます。

私の祖父が育ったのは、歯舞諸島の中にある島でした。

「多楽島という島はなあ水産物が豊富で、いっぱい魚が捕れたでな。10メートルもある鯨なんか捕れると、島の人みんなで分け合ったりして、みんな仲良く暮らしていたもんだ。」

そう楽しそうに語る祖父に私はある質問をしました。

「じゃあ、なぜ島から逃げてきたの？」

するとさっきまで楽しげに話していた祖父の顔がみるみる悲しそうな顔になりました。

「あれは、忘れもしない、ようやく戦争が終わったというのに、いきなりソ連兵が銃を持って島に上陸し、占領したんだよ。わしらはソ連兵が見ていないすきに、着のみ着のままポンポン船に乗って逃げてきたんだよ。あの時は、恐ろしくて涙も出なかった。」と語る祖父は、目をタオルでふくのです。

私はこの話を聞いた時、祖父がどのような思いで自分たちが住んでいた島を出たか、計り知れない気持ちでいっぱいになりました。

この時から、私は返還運動にたずさわろうと心に決めました。

去年の夏のことです。私は富山県の中学生との交流会に参加しました。そこでは、祖父以外の元島民の方々の話を聞いたり、領土のことを話し合ったりしました。話し合いでは富山県の中学生の方が、領土に近い私たちよりも興味を持っていて詳しく、私にはびっくりしました。根室に住んでいる私たちは富山県の中学生を見習わなければならないと思いました。そして前よりも北方領土のことについて調べるようになったのです。

その一つですが『北方墓参』について調べました。北方墓参とは島にお墓参りに行くことで戦後、島民の人たちが「せめて墓参りぐらいさせてほしい。」という願いから始まったことです。しかし島へ墓参りに行っても時間と場所が決められていて自由に動き回ることさえ許されないのです。そんな不自由な墓参りでも島へ行くのを楽しみにしている元島民の人たちがいます。私は島民の人たちを自由に行き来できるようにしたいのです。

でも、今現在、元島民は高齢者がほとんどで大半は2世・3世に変わってきています。そんな時代の中、領土に関する関心が薄れてきていて知らない人たちが増えてきています。私はこのままだと北方領土が忘れ去られていく気がします。

このままでいいんでしょうか？

いいえ、忘れ去られていいはずがありません。

私は、元島民の話を聞くうちに、島で暮らしていた人たちの帰りたい思いを無駄にはできないと思うようになりました。

そのためには、日本から、地元である根室から私たちが変わらなければなりません。

祖父の悲しみや無念さを聞くだけでは北方領土は返ってこないのです。

これからは私たちの番です。私たちが北方領土に興味を持ち学び、元島民の想いを今の世代に伝えてゆくのです。

私は、元島民3世として地元である根室から声を発し返還運動にたずさわっていくことを決意します。

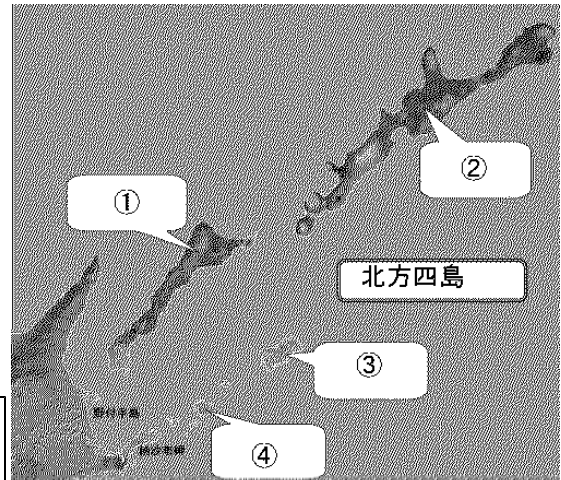
日本の民主化と国際社会への復帰

組 氏名

～北方領土問題を考える～

＜課題1＞ 北方領土の4つの島の名称を答えよう。

- ①【 】
②【 】
③【 】 * 納沙布岬から一番近い
④【 】 島まで3.7 kmです。



＜課題2＞ 北方領土の歴史的経過を調べてみよう

(1) 資料1「国境の取り決め」と資料2「戦前の様子」
を見てわかること。

これらから言えること → 北方領土は【 】である。

(2) 資料3「ソ連の不当占領」

をもとに、ソ連（現ロシア）
がどのようにして北方領土を
占領したのかまとめよう。

＜課題3＞ 資料4・資料5「伝えてゆく島への想い」（根室の中学生の意見文）を読もう。

＜課題4＞ 今日の授業を通して考えたことや感じたことを書こう。